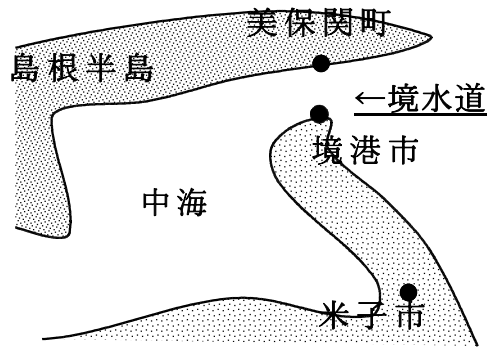


水道を越えると島根県だった 美保関町の話

米子から伸びた巨大な砂嘴の先端に鳥取4大都市の一つである境港市がある。境港の向かいが島根半島で、その間の狭い海峡が境水道である（右図）。であるから境水道は鳥取県と島根県の県境となる。ちなみにこの水道を東に下れば日本海に出、西に上れば中海があり、宍道湖がある。

さて境港と向かいの島根半島の間には境水道大橋という、その名の通り巨大な鉄橋が架けられていて、その鉄橋を渡った先が今回紹介する美保関町なのである。



〔美保隕石〕

今から二年前の出来事なので覚えている方も多いと思うが、この美保関町に隕石が落下した。落下地点は惣津という村の松本さん宅で、隕石は、屋根を破り、床の間も貫通してしまった。松本さんは隣の部屋で寝ていたというからまさに九死に一生。この隕石、調べてみると直径24cm・質量6.4kgもあったとか。普通、宇宙からやって来た物体は大気との摩擦で燃え尽きてしまうものだけでも、燃え尽きもせず、しかも陸地に、それも民家を直撃などということは滅多にあることではない。

現在は落下地点にはモニュメントがあるそうだ。また今年7月には境

港の向かいの七類の村に展示施設がオープン予定。

〔五本松公園〕

美保関の町からリフトである。1000本ものツツジが有名。民謡・「関の五本松」に歌われた松がある。

関の五本松

「関の五本松、一本伐りや四本、後は伐られぬ夫婦松」という歌詞の民謡。この地にあった五本松が大名行列の槍にふれ、一本伐られたが、残りは住人が歌って嘆いたため許されたという話が元になっている。

〔美保神社〕

美保造りといわれる珍しい建築様式を採る本殿がある。えびす様を奉り、漁業・商売・開運を願う人々の信仰が厚い。現在工事中。

〔仏谷寺〕

聖徳太子創建だが、それよりも後鳥羽上皇や後醍醐天皇が隠岐へ流されるとき、船がでるまで待機をした場所として有名。境内にどちらかが詠んだ歌の碑があった。覚えていないが、「こんな所まで流されて涙で袖が濡れる」とか、なんか情けない内容の歌だったような。

またここは八百屋お七の恋人・吉三の墓がある。

八百屋お七

歌舞伎などで有名だが、江戸時代の実在の人物。八百屋の娘で自宅への放火のかどで火刑にされた。放火した原因については、自宅が火事で寺に仮住まいをしていたころ、寺の男に惚れた。自宅に戻っても寺男への思いは募り、再び火事になれば会えるのではと、火を点けたという。切ないねえ。

〔青石畳〕

美保神社から仏谷寺までの通りは、このあたりで産出される青石を使った石畳の道である。取材当時は雪が融け石畳がしっとり濡れて、いい味を出していた。

〔地蔵崎〕

美保関の町からさらに東、島根半島の最突端である。

白く塗られた石造りの風格ある灯台がある。また隣には、灯台ビュッフェという名のレストランがある。このレストラン、昔の灯台守の宿舎を改造したもので、灯台と同じく白塗りの石造りに赤い屋根。これだけ見ると、なんとなく地中海風でお洒落だ。しかし取材当時は、雪が積もってるわ、風は強いわ寒いわで、とてもそんな雰囲気味わうわけにはいかなかったが。

ちなみにこの灯台ビュッフェ、辺鄙な場所にあるにしては、なかなかいいモノを出す。今回の取材では、イカ飯・カレー・スパゲッティを賞味したが、どれもグルメな我々を唸らせるだけの水準に達していたと言える。ちなみに私個人で何年か前に訪れたときも、ここでハンバーグラッチェを食べたのだが、なかなか良かった記憶がある。まあみなさんにお勧めできるランチスポットですよ。

(この項終わり)